



特集

立見久子さんに聞く昭和30年頃の高摩市和田

—— 私が育った頃 ——

● あたり一帯が里山

私は昭和22年、和田三丁目団地のすぐ北の生まれです。昭和30年頃の和田のあたりは一帯が里山で、ニュータウン通りのあたりまで、ほとんどがなな山のような里山でした。野猿街道はアスファルトの道だったけれど、片側一車線で、トラックが通るときはどちらかが退避していました。中和田通りは山道でした。牛や馬を田畑で使っていたから、牛馬を運送用に使っていた家もありました。またお大尽の人なんだろうけれど、馬に乗って山越えをしている人もいました。かっこ良く乗っていました。

うちの父は会社員だったけれど、周りの家は農業で、長男が田畑を継いで、長男以外は勤めに出るといううちが多かったですね。

住宅はうちも、周囲の家も藁葺きでした。お米を収穫した後の藁を濡らさないように納屋に積み上げてありました。屋根の葺き替えに使用するためです。一軒の家が4年くらいかけて徐々に藁を葺き替え、それが終わると、次の家というふうに順番にやっていました。一度葺き替えると、20～30年くらいはもったそうです。

普通の農家の造りは、玄関のある南から入ると北まで土間が抜け、右にいろりとかまどがあって、左側に部屋がある、南に二部屋、北に二部屋。いわゆる田の字になっていて南側の部屋には必ず縁側がついていました。南の西側の部屋は特別な部屋で、一般の人を入れることはない。女は北側の部屋で過ごしていました。

● マムシを捕る

藁葺きの家は、夏になるとヘビが天井からパタッと落ちてくるのがいやでした。真夏は蚊帳を釣るからいいんだけど…。蚊帳の中にホタルを2匹くらい放して、朝になると



逃がしてゆったりしていました。

ホタルはいっぱいいて、素手で取っていました。ホタルを取るとき、父に「草むらの中で光っていても、すぐ手を出しちゃだめだよ」としつこく言われました。ヘビの目も同じように光るんですって。だから見つけたら棒を持って行って、草むらをかきかきやって、それでも動かなかつたら、ホタルだから捕りなさいって。ヘビなら噛まれるし、それがマムシだったら大変なことになる。血清を打たなければならぬから。今のアイクリニックの近くに高摩市唯一の診療所があってそこにしか血清はなかった。噛まれた本人が自転車で診察所まで行ったりしていました。特に貝取、永山はマムシの多い所で、毎年太い大きなマムシが捕まえられていました。マムシを見つけたらマムシに「待ってろ！」って言う。そうすると、ちゃんと待っている？その間に木の股が三角になっている棒を見つけて来て、マムシの後ろから頭の所をキュッと押さえると動けなくなる、そこで頭をつかむと噛まれない。それを袋の中に入れて、ぐるぐる回しをして気絶させる。それをうちへ持って帰って一升瓶の中に入れて、そこへ水を入れてドロを吐かせるの。何回か水を入れ替えてドロを吐かせたら、そこへ焼酎を入れて焼酎づけにする、それがすごい栄養剤なんですって、今の厚生荘病院（昔は結核病院だった）に売りに行くと、飛ぶように売れたんですって。だから父は毎年1～2匹捕まえては焼酎づけにしていた。流しの下ドビラを開けると、それが並んでいるの。それがイヤで、イヤでたまりませんでした。

● 豊富な湧き水

井戸（後からポンプを付けたが）は、子どもの頃はつるべ井戸でした。

田んぼの水は大栗川から水車や足踏みの器具を使って水を上げている所もあったけれど、この辺はいたるところ、湧き水があって水が溢れていたの、そこから水を引くことが多かったようです。

高台にあった私の家では、隣の家の北側の井戸だけ、使わせてもらっていたんだけど、夏場になると渴水するから、お隣のうちも南側の井戸だけでは足りなくなるので我が家



は、お風呂の水はだいたい山の湧き水を使っていました。水汲み場は山のちょっと下がった沢の水が集まってくる所で、水量のすごく多い場所でした。バケツに汲んで天秤の両サイドに吊るして坂の上まで運ぶ。何回か運んで、リヤカーに積んである桶に貯める。桶が一杯になると、風呂桶に運ぶ。バケツの水をこぼさないように、天秤の前後を押さえて坂道を上がるということを小学生の頃からやっていたから、今でもできると思います。水脈のいい所の井戸はいいんだけど、湧水する所のうちはみんな、そうやっていました。でも、水は里山のいたる所から湧いていました。沢の水が集まってくる所だから、綺麗な水でした。お風呂の燃料（途中から石炭になったが）は薪でした。薪は里山の持ち主から切っていい木に印（しるし）をしてもらい、のこぎりで切らせてもらっていました。それで薪を作り、軒下に積み上げていました。焚付けの木はスギの落葉がすごくよく火がつくので、しょっちゅう山へ行って拾ってきました。

● 家族でメカイ作り

両親は浅草に住んでいて、震災で焼け出されて、身一つで多摩（父の実家）に来たから、生活用品が何もなくだったので近所の人から余っている鍋、釜など、いろいろもらったと言っていました。それだけでは生活できないから、父の母親がメカイ（目簞）を作って、「作ったものは全部あなたにあげる」と言って私の母にくれたんです。母は下の兄をおぶって、メカイを持てるだけ持って売りに行ったんだけど、あっという間に売り切れちゃって、一日二往復したこともあったと言っていました。

メカイ作りは立ち上げまではおしゃべりしながら手元も見ないで一気にできる。でもその後は違う作業になって、そう簡単ではなかったようです。材料のシノダケはまわりにいっぱいありました。本家には竹やぶもあり、息子も孫もいたから材料集めは何人かでやっていました。切ったり、長さを揃えたりは子どもが、裂くのはちょっと大きな子どもがやっていたね。テレビも何もない時代だから、ひまつぶしにやっていたんです。

私の子どもの頃は、今のニュータウン通りに出るためには、山越えをして行かなければならなかったけれど、それが全部切り崩されて、団地になってしまいました。南側の他の雑木林もどんどん開発され、本当になな山だけが残ったんです。公園化して緑を残してはいても、昔の雑木林じゃない。後から別の木を植樹している。そういう所はつまらない。なな山には元々の樹木が残っているのがいいですね。これからも大切にしていかなければと思います。（談）

ななやまの皆様こんにちは。

多摩市和田在住の3姉妹（七五三）の母・小田佳奈子と申します。



子どもと共に楽しみながら活動したいと思います。

また、市民活動家として里山と子ども、地域と繋げるお手伝いを頑張ります!!



多摩市グリーンボランティア講座が開催された

4月27日（土）、今年の講座は朝から良い天気恵まれた。9時半に第12期講習生21名が集まる。今年は阿部市長が挨拶された。その中でなな山緑地の会の活動、特に子どもたちの里山体験会を高く評価されていた。続いて、住崎さんが、多摩市に寄付した里山への思いを熱く語られた。柔軟体操の後、高木会長の挨拶、公園緑地課の松下係長から市の緑化政策の説明があった。いよいよ相田さんの案内でなな山緑地の見学となる。なな山の全山を巡るコースで約1時間半かかり、昼休みに30分食い込んでしまったが、中身の濃い説明で受講生も真剣に聞いていた。折から、なな山はキンラン、ギンランの花盛り、その中でなな山の自然の素晴らしさを十分堪能できた様子だった。午後からは川添会長の講義、草刈り、刈払機の体験講習があり、鎌の手入れをして講座を終了した。なな山の素晴らしさに惹かれて女性1名が直ちに入会を希望するというハプニングもあった。（鎌田）



「多摩の里山 植物観察会」が開催された

4月20日(土)午前、多摩市グリーンボランティア連絡会主催の「多摩の里山 植物観察会」が、なな山で行われました。講師の柴田素子さん他6名の方が参加しました。相田さんの案内で西の山、中の山を回りました。当日は曇りで大変寒い日でしたが、コバノタツナミ、キンラン、ササバギンラン、ツクバネウツギ、カマツカなどの花が咲き、参加者の方々は植物の名前をメモし、図鑑を引いたり、写真を撮ったり、思い思いに観察していました。今まで、なな山で解明されていなかった植物「タガネソウ」が新たに確認されました。シイタケが少し出ているので、一人1本ずつ採ってお土産にし、皆さんに喜んでいただきました。(中原)



タガネソウ



多摩・生活者ネットワークの自然観察会

5月6日(月)、多摩・生活者ネットワークの自然観察会が、なな山で行われました。参加者は21名で、なな山からは、高木会長、相田さん、中原が参加しました。

「落葉樹の森」「常緑樹の森」「シノダケの山」というなな山全体の説明を相田さんから受けた後、観察が始まりました。サイハイランには時期が少し早かったものの、キンラン、ササバギンラン、エビネは元気な花をたくさん咲かせていました。またアマドコロ、ミヤマナルコユリ、ワニグチソウなど初夏の花が蕾をつけ、その清楚な姿に参加者の方々は心洗われる様子でした。ワニグチソウの花の不思議な形や、ハンショウヅルの紫の花が観察できたことは、タイムリーで貴重な体験でした。参加者の中には植物の名前に興味をもたれた方もいたようでした。お天気がよく気持ちのよい観察会でした。なお、なな山では初めてアオハダ



アオハダ(雄花)



の花(雄花)を確認することができました。(中原)

帝京大学教育学部2年生の校外学習が行われる

4月23日(火)帝京大学教育学部2年生の校外学習が、なな山で行われた。下重喜代非常勤講師率いる男子14人、女子1人の15人が参加。9時から10時30分まで。高木会長のなな山緑地説明の後、緑地を進みながらの下重講師の講義が展開された。中の山と西の山の管理の違い、森林の環境に関わる役割、分解者たる微生物の働き(落ち枝も、枯れ草も、落葉も森林ではすべてゴミではなく資源である実感など)の解説。なな山での落葉、小枝、倒木の処理の方法に対する好評価と、この緑地は環境教育の絶好の場であると絶賛もされた。学生たちの反応はほとんど感じられなかったが、最後に全員に感想文を書かせていた。一部見せていただいたが、全部見たいものである。私は講師について周り、補足的な説明に徹した。終了後12時半まで、下重氏と二人でなな山全域を観察した。

(相田)



なな山、南鶴牧小学校観察会報告

参加者 生徒 24人(内1人中学生)
保護者 6人
先生 3人(鶴牧中学校長含む) 計 33人

5月11日(土)小雨の降り始めた10時30分到着。あらかじめブルーシートを張った雨よけに荷物を置き、なな山散策に入る。小雨が降ったりやんだりしているが、皆元気に山を歩く。盛りを過ぎたキンラン、ギンラン、エビネも見られる。サイハイランはもう少し。ウグイスカグラの実が色づくが、子どもの人数には数が足りず、賞味はおあずけ。コバノガマズミ、ミヤマナルコユリ、アマドコロ、ワニグチソウ、ハンショウヅルは盛り。腐食木を削って虫探し。カブトムシの幼虫は堆肥囲いで何匹か見つける。キノコのホダギには関心が高い。シイタケはいくつか収穫できた。スギとヒノキ、コナラとクヌギ、ムラサキシキブとヤブムラサキの違いを確認。コナラのドングリからの実生も観察する。12時、小雨の中、雨を避けてお弁当を遣い、



12時30分解散する。(相田)

なな山日記 (活動・観察記録)

とたに えま

No.212 2013年4月14日(日) 晴れ 気温20℃ 参加者13人

キンランが咲き始めエビネの花芽も膨らみ、メカイ作りグループも賑やかに集まり、里山が一番美しい季節。

●作業/サトイモ植付け、シイタケの収穫。GV 講座用丸太椅子作り、中の谷の落葉を囲いに入れる、切り株の切除。

●観察/キンラン、ウワミズザクラ、ニオイタチツボスミシが咲いた。



No.213 2013年4月27日(土) 晴れ 気温21℃ 参加者6人

「多摩市グリーンボランティア講座」がなな山緑地で開催された。

●内容/阿部市長挨拶。里山寄付の経緯、会の成り立ち、多摩市の緑化政策などの説明。

午前：マント群落など雑木林の成り立ちについて講義。相田さんの案内でなな山全体の観察・解説。午後：笹刈り実習、刈払機の実技体験、鎌の手入れ。



No.214 2013年4月28日(日) 晴れ 気温21℃ 参加者16人

馬場さん2ヵ月ぶり復帰。倉庫棚卸ですっきり。

●作業/活動場所全体を散策し、植物の様子や道づくりを確認。テント片付け。ジャガイモ芽かき・追肥、畝づくり。法面草刈り、チェーンソー講習・メンテナンス、倉庫全体の棚卸。

●観察/エビネ、オオアマナ、タガネソウの花が咲いた。



No.215 2013年5月12日(日) 晴れ 気温19℃ 参加者15人

「なな山だより28号」配布。少人数精鋭。暑い一日。

●作業/サツマイモ・スイカの苗植付け、草取り、畑囲い。クヌギの毛虫退治、シュロ縄作り、広場草刈り、東の山の道づくり。10年誌下準備。

●観察/アマドコロ、ワニグチソウの花が咲いた。ウグイスカグラの実が赤くなっていた。



No.216 2013年5月26日(日) 晴れ 気温22℃ 参加者24人

多摩・生活者ネットワークから4人参加。新人・小田さん子ども3人連れて賑やか。

●作業/畑の草取り、カヤの採集。植物観察。法面の草刈り・清掃。コナラの苗植付け、広場の木の間伐。

●観察/サイハイラン満開、ハンショウツルは花冠となっていた。ナルコユリ、フタリシズカの花が咲いた。



No.217 2013年6月9日(日) 晴れ 気温28℃ 参加者14人

暑い日で休みながら作業。木陰は風があって心地よし。

●作業/スイカの蔓下のカヤ敷き、カボチャの苗植付け。法面のヒノキの枯木処理、枯れ枝払い、道路沿いの草刈り・清掃、広場脇シガラ土留工事、東の山の道づくり。

●観察/アナグマ、ジムグリ(小さいヘビ)を確認。オナガ、ホトトギス、ガビチョウなどの声を聞いた。



No.218 2013年6月23日(日) 晴れ 気温27℃ 参加者25人

HPを見て25歳の体験希望者が参加。昼にジャガバターを楽しんだ。

●作業/ジャガイモ収穫、サトイモ土寄せ。住宅付近の木の除伐、広場草刈り、道路沿いの草刈り・清掃、東の山の道づくり、チェーンソーの目立て。

●観察/アキノタムラソウ、オオカモメヅルの花が咲いた。タヌキの巣アナ?確認。



No.219 2013年7月14日(日) 晴れ 気温33℃ 参加者17人

全山ヤマユリ花盛り! なな山の自然の豊かさを感じた一日。

●作業/サツマイモ蔓返し、スイカ蔓整理、サトイモ水やり。クズの蔓採集、シイタケ・ナメコほだ木本伏せ、住宅付近草刈り、アナグマ生息検証、チェーンソー目立て、中の谷草刈り。植物観察。

●観察/タムシ、クワガタ、カブトムシが見つかり、ウグイス、ガビチョウが盛んに鳴いていた。



お知らせ

11月は「なな山緑地10周年記念月間」です。

11月2日(土)、12月15日(日)は遠足です。参加を希望する方は3日前までに鎌田か中原へ申し込んで下さい。

鎌田携帯: 090-2649-2969 中原携帯: 080-5375-4865

11月24日(日)の昼はパーベキューパーティーです。通常の活動もありますが、お手伝いをよろしくお願い致します。

なな山だより 第29号 2013年10月13日発行

発行 なな山緑地の会

発行責任者 高木直樹

住所 多摩市和田1394-13

ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>

編集委員 鎌田文雄 中原君代 戸谷恵麻